

令和6年度 小樽市立奥沢小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語も算数も、基礎基本に関わる内容は一定程度の成果がみられるものの、中学年以降の学習内容が十分に定着しきれていない様子が見えてきた。

国語においては、学年間で大きな違いはあるものの「書くこと」について全国を上回る項目が多く、全体的には力の伸びが見られる結果となっていた。しかし、問題文の読み取りを含め国語全般に厳しい結果となった学年もあった。そのため、国語は全国比－8.2という結果であった。特に「書くこと」については、短期間で力がつく内容ではないので、引き続き全教科の中で「自分の考えを書く」「条件に合わせて書く」ことを意識的に取り組んでいく必要がある。算数についても同様に算数は全国比－7.5という結果であった。「学級の間層」の正答率が全国平均に比べて低く表れている領域を洗い出し、その項目について意識的に取り上げ、定着を図っていく必要がある。全体的に、「自力解決で問題文を読み解き、解き方の筋道を立てる」力をつけ、活用問題を解くことができる児童を目指し、力をつけていきたい。

その他、基礎・基本の定着に向けて、全校で共通理解を図って取り組んでいるが、個人や学年によって課題が見られる。また、学年×10分+10分の家庭学習習慣の確立も児童アンケートの結果74.8%とまだ課題が見られる。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・ひらがな100%、カタカナ90%以上 漢字90%以上 教科書をすらすら読めるようにする。90%以上
2年	・配当漢字を読んだり、書いたりする。80%以上
3年	・教科書をすらすら読めるようにする。90%以上
4年	（3年生以上）
5年	・課題や条件に合わせて文を書けるようにする。
6年	85%以上

<算数科>

学年	定着目標
1年	・繰り上がり繰り下がり足し算・引き算 90%以上
2年	・かけ算の意味理解（1あたりの重視）と九九の徹底・定着90%以上 ・三角形と四角形の理解と三角定規の操作の習得90%以上
3年	・割り算の意味理解と定着・コンパス操作の習得 80%以上
4年	・小数の四則計算の定着・わり算の筆算の習得・正方形、 ・□を使った式・計算・分度器操作の習得80%以上
5年	・小数・分数の加減計算・割合に関する基本問題の習得、 ・円周の求め方の習得 80%以上
6年	・分数の四則計算・立体の体積・円の面積の求め方 ・グラフやデータの読み取り習得80%以上

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・宿題提出を95%以上にする。
2年	・宿題提出を95%以上にする。
3年	・宿題提出を95%以上にする。
4年	・宿題提出を95%以上にする。
5年	・宿題提出を95%以上にする。 自学ノート提出85%以上にする
6年	・宿題提出を95%以上にする。 自学ノート提出90%以上にする

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①見通し（課題）、振り返りを位置づけた授業を進める。
- ②全校算数ドリルの活用やチャレンジテスト、確認テストの取組
- ③学習規律の確実な定着を目指した指導の徹底

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①TT、習熟度別少人数指導の充実を図るための担当教諭との日常的な打ち合わせ
- ②校内研修の充実、公開研・研修会等への参加

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①スマート7や生活リズムチェックシートの活用等、家庭への啓発活動
- ②保護者会や学校だより等を活用した、音読や読書習慣の定着に向けた継続的な取組（家庭学習の手引きの見直し、配布等）

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 6 年	・学力向上改善プランの作成
4 月	・チャレンジテストの実施
	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
5 月	○全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 放課後学習会
	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
6 月	・全国学力・学習状況調査自己採点結果分析 （校内学力向上検討委員会）
	○標準学力調査結果分析
7 月	・全国学力・学習状況調査自己採点結果・標準学力調査 結果を踏まえた授業改善の実施 ・校内研究授業の実施 ・1学期末チャレンジテストの実施 ・夏休み学習会の実施
8 月	○全国学力・学習状況調査結果分析
9 月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10 月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
11 月	・2学期末チャレンジテストの実施
12 月	
R 7 年	・冬休み学習会の実施・
1 月	○新学力向上改善プランの作成
2 月	・3学期「確認テスト」の実施
3 月	（春休み期間）

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①チャレンジテストや単元テスト、確認テスト等の結果分析
- ②全国調査問題や標準学力調査の結果分析
- ③校内研修による検証（学習規律、見通し、振り返り等）

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①自己評価や児童アンケートの結果分析
- ②研究協議等による検証・分析
- ③外部からの意見を参考にする

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①全国調査質問紙の結果分析
- ②自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果分析